

3 超関数の台

- 簡単のため、 $N = 1$ として Dirac の δ 超関数 $\delta: \mathcal{D}(\mathbb{R}) \rightarrow \mathbb{R}$ を考えよう。このとき $\varphi \in \mathcal{D}(\mathbb{R})$ について $\text{supp}\varphi \subset (0, \infty)$ であれば、 $\delta(\varphi) = \varphi(0) = 0$ である。同様にして $\text{supp}\varphi \subset (-\infty, 0)$ であっても同様に $\delta(\varphi) = 0$ である。この事実は次のように述べられる： **δ は $\mathbb{R} \setminus \{0\}$ で 0 である。** 本節では、簡単のため、 \mathbb{R}^N 上の超関数に関してその台について解説する。

定義

$T \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^N)$ とする。ある開集合 $U \subset \mathbb{R}^N$ が存在して

$$\varphi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^N), \text{supp}\varphi \subset U \Rightarrow T(\varphi) = 0$$

が成り立つとき、 **T は U で 0 である**という。

超関数の台を定義するのに必要な 1 の分割について述べよう。

命題 3.1 (1 の分割)

$K \subset \mathbb{R}^N$ をコンパクト集合 (有界閉集合) とする。開集合 U_1, \dots, U_k が

$$K \subset \bigcup_{i=1}^k U_i$$

が成り立つとする。このとき、ある $\varphi_1, \dots, \varphi_k \in C_0^\infty(\mathbb{R}^N)$ で

- $0 \leq \varphi_i \leq 1$
- $\text{supp}\varphi_i \subset U_i$
- K を含むある開集合で $\sum_{i=1}^k \varphi_i = 1$

を満たすものが存在する。

- 証明は略

命題 3.2

$U_\lambda \subset \mathbb{R}^N$ ($\lambda \in \Lambda$) を開集合とし、 $T \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^N)$ は各 U_λ で 0 であるとする。このとき

$$U = \bigcup_{\lambda \in \Lambda} U_\lambda$$

とすると T は U で 0 である。

証明

- $\varphi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^N)$ とし, $\text{supp}\varphi \subset U$ とする. このとき $T(\varphi) = 0$ を示そう.
- $K := \text{supp}\varphi \subset U = \bigcup_{\lambda \in \Lambda} U_\lambda$ で K はコンパクトであるから, 有限個の U_1, \dots, U_k が存在して $K \subset \bigcup_{i=1}^k U_i$ が成り立つ.
- 命題 3.1 により $\varphi_1, \dots, \varphi_k \in C_0^\infty(\mathbb{R}^N)$ で

$$0 \leq \varphi_i \leq 1, \text{supp}\varphi_i \subset U_i, K \text{ を含むある開集合で } \sum_{i=1}^k \varphi_i = 1$$

を満たすものが存在する.

- T は U_i ($i = 1, \dots, k$) で 0 なので $T(\varphi\varphi_i) = 0$ ($i = 1, \dots, k$) である.
- $\text{supp}\varphi \subset K$ より $\varphi(x) = \sum_{i=1}^k \varphi(x)\varphi_i(x)$ である.
- したがって

$$T(\varphi) = T\left(\sum_{i=1}^k \varphi\varphi_i\right) = \sum_{i=1}^k T(\varphi\varphi_i) = 0$$

よって示された. \square

定義

$T \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^N)$ とする.

$$\mathbb{R}^N \setminus \bigcup_{U \subset \mathbb{R}^N: \text{open}, T=0 \text{ on } U} U$$

を T の台といい, $\text{supp}T$ と表す.

注 命題 3.2 より T は $\mathbb{R}^N \setminus K$ で 0 である.

例 1 Dirac の δ 関数 δ について $\text{supp}\delta = \{0\}$ である.

例 2 Heaviside 関数 H が定義する超関数 T_H について $\text{supp}T_H = [0, \infty)$ である.

補題 3.3

$T \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^N)$ とし, $K := \text{supp}T$ はコンパクトとする. このとき, K を含むある開集合 U があって $\varphi_1, \varphi_2 \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^N)$ が

$$\varphi_1(x) = \varphi_2(x) \quad (x \in U)$$

ならば

$$T(\varphi_1) = T(\varphi_2)$$

である.

証明

- $\Omega = \mathbb{R}^N \setminus K$ とおく.
- $\varphi = \varphi_1 - \varphi_2$ とすると, $\varphi = 0$ on K なので $\text{supp}\varphi \subset \mathbb{R}^N \setminus K = \Omega$ である. したがって $\varphi \in C_0^\infty(\Omega)$ である.
- したがって命題 3.2 の後の注により $T(\varphi) = 0$ が成り立つ. したがって $T(\varphi_1) = T(\varphi_2)$ を得る. \square

簡単のため 1次元のみとするが次のことが成り立つ.

命題 3.4

$T \in \mathcal{D}'(\mathbb{R})$ に対して, $\text{supp}T = \{0\}$ とする. このとき, ある非負整数 m と, c_i ($i = 0, \dots, m$) が存在して

$$T = \sum_{i=0}^m c_i \frac{d^i \delta}{dx^i}$$

と表される.

証明

- $K = [-1, 1]$ とすると命題 1.4 より, ある $C > 0$ と非負整数 m があって

$$|T(\varphi)| \leq C \sum_{j=0}^m \sup_{x \in [-1, 1]} \left| \frac{d^j \varphi}{dx^j} \right| \quad \forall \varphi \in C_0^\infty(\mathbb{R}) \text{ with } \text{supp}\varphi \subset (-1, 1)$$

- $x = 0$ の近傍で $\zeta(x) \equiv 1$ である $\zeta \in C_0^\infty(-1, 1)$ をとる. 任意の $k \in \mathbb{N}$ に対して $\zeta_k(x) = \zeta(kx)$ とおくと $\zeta_k \in C_0^\infty(-1, 1)$ である. また, 補題 3.3 より

$$T(\varphi) = T(\varphi \zeta_k) \quad \forall \varphi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^N) \quad (3.1)$$

が成り立つ.

- 任意に $\varphi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^N)$ をとり

$$\varphi_m(x) = \varphi(x) - \sum_{j=0}^m \frac{\varphi^{(j)}(0)}{j!} x^j$$

とおく.

- $\psi_k(x) = \varphi_m(x)\zeta_k(x)$ ($k = 0, 1, \dots, m$) とおく. Taylor の定理より

$$\begin{aligned} \varphi_k^{(l)}(x) &= \varphi^{(l)}(x) - \left\{ \sum_{j=l}^m \frac{\varphi^{(j)}(0)}{(j-l)!} x^{j-l} \right\} = O(|x|^{m-l+1}) \quad (\text{as } |x| \rightarrow 0) \\ \zeta_k^{(l)}(x) &= O(k^l) \quad (\text{as } k \rightarrow \infty) \end{aligned}$$

- これと $\text{supp}(\varphi_m\zeta_k) \subset (-1/k, 1/k)$ に注意すると

$$\begin{aligned} |T(\varphi_m\zeta_k)| &\leq C \sum_{j=0}^m \sup_{x \in [-1/k, 1/k]} \left| \frac{d^j(\varphi_m\zeta_k)}{dx^j} \right| \\ &\leq C \sum_{0 \leq j+l \leq m} \sup_{x \in [-1/k, 1/k]} |\varphi_m^{(j)}(x)| \sup_{x \in [-1/k, 1/k]} |\zeta_k^{(l)}(x)| \\ &\leq C \sum_{0 \leq j+l \leq m} k^{-(m+1-j)} k^l = C \sum_{0 \leq j+k \leq m} k^{j+l-m+1} \leq \frac{C}{k} \rightarrow 0 \quad (\text{as } k \rightarrow \infty) \end{aligned}$$

- 一方, $\text{supp}(\varphi_m\zeta_k) \subset (-1/k, 1/k)$ に注意すると補題 3.3 より $T(\varphi_m\zeta_k)$ は k によらないので

$$T(\varphi_m\zeta_1) = \lim_{k \rightarrow \infty} T(\varphi_m\zeta_k) = 0$$

である. したがって再び (3.1) より

$$\begin{aligned} T(\varphi) &= T(\varphi\zeta_1) = T(\varphi_m\zeta_1) + \sum_{j=0}^m T\left(\frac{\varphi^{(j)}(0)}{j!} (\cdot)^j \zeta_1\right) \\ &= \sum_{j=0}^m T\left(\frac{\varphi^{(j)}(0)}{j!} (\cdot)^j \eta_1\right) \varphi^{(j)}(0) \end{aligned}$$

- また $\frac{d^j \delta}{dx^j}(\varphi) = (-1)^j \varphi^{(j)}(0)$ であるから, $c_j = (-1)^j T\left(\frac{\varphi^{(j)}(0)}{j!} (\cdot)^j \eta_1\right)$ とおいて

$$T(\varphi) = \sum_{j=0}^m c_j \frac{d^j \delta}{dx^j}(\varphi)$$

が成り立つ. \square